



NO.139

Tribology Girl's Power
—科学する女性たちは、いま—

唐澤 ルリ子 さん

入江工研(株)
技術グループ 第1技術係

着実に技術力を高め 真空機器開発に挑戦

ゲートバルブ開発を習得中

私は、真空ペローズや真空バルブなどの真空機器を手掛ける入江工研で、技術グループに所属しています。

当社は半導体を製造するための真空機器などを製造しています。私が入社したのは、当社が新たに医療機器分野に参入するタイミングで、前職で医療関係の仕事に長年携わってきた経験もあり採用されました。東大阪市に生まれ、自動車修理などを生業とする父を持つ私は、ものづくりの世界に慣れ親しんでいましたが、仕事としての経験はありませんでした。そのため、ものづくりの一連の流れが学べる職業能力開発促進センター「デジタルものづくり技術科」の6ヵ月コースに通い、しっかりと準備を整えて採用面接に臨みました。

入社後は、埼玉県川越市にあるテクニカルセンターで医療機器や輸液ポンプの開発を行う新規事業部門に配属され、輸液ポンプの開発に没頭する日々が続きました。産学官連携による共同開発でトライ&エラーを繰り返しながらもプロトタイプを完成させ、本年発売予定の製品に繋げることができました。

2022年からは既存製品の設計部門である技術グループに異動となり、半導体製造装置用ゲートバルブの設計業務を習得中で、性能試験やオーバーホールのお手入れに伴う装置の分解、動作確認作業、見積書作成などに携わっています。私は人一倍不器用ですが、不器用だからこそ、できるまでやり続けることを徹底することで、対応できる業務が着実に増えていくことを実感しています。そうすると応用も利くようになり、仕事が楽しくなって未知の領域に挑戦する意欲が湧き

ます。

昨年には当社の社長が推奨する、教育プログラムの一つであるAIチャット型学習アプリ「AI人材育成プログラム」の学習に臨み、社内AI企画コンテストで優秀賞に選ばれました。

さらに半年前から広報の仕事も兼務しています。時には多様な業務で、頭の容量を超えてしまいそうになりますが、事前準備と段取りをしっかりと行い、目の前の仕事を質良くできるように取り組んでいます。

未知の領域に挑む

現在の私があるのは、その時々ターニングポイントで開けがあった人たちが私を支え、後押ししてくれたからです。失敗して落ち込むこともありますが、当社には失敗に対して非常に前向きで「失敗から生まれる確かな技術がある」と「失敗学」を語ってくれる社長がいます。だからこそ、私も失敗をばねとして「ただでは転ばない」、「この失敗からの気づきで成功させてみせる」という意気込みで日々仕事と向き合っています。

創業者の入江則公は新幹線の開発技術者で、当社の主力製品である「溶接ペローズ」を製品化しました。私はこの製品を初めて見た時に美しいと思いました。そんな見たことのないものを創る会社が当社だと思っています。

私は未知の領域に足を踏み入れることに躊躇しない性格です。当社の応用技術を活かして「見たことのないもの」を創るために、上司や先輩、関係者から技術力を吸収して形にできるよう、知識向上に努めています。